

**1 「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、
子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる**



● 「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要。
(⑤・⑥・⑦)

→ 「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

● 主体的・対話的で深い学びは、子供たちの学習方略の改善や非認知能力の向上を通じて、学力を向上させる（①～④）。
※昨年度の分析結果（①～④）は、平成29年度の調査結果を加えて分析しても同様のことが言える。

＜参考＞
「非認知能力」・・・例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力
「学習方略」・・・例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度

2 主体的・対話的で深い学びは、社会経済的に課題のある可能性のある中2・中3の子供の学力向上に、より効果的

	国語						算数・数学			
	小5		中1		中3		小6		中2	
	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし	通塾あり	通塾なし
AL (国語)	0.014***	0.014***	0.0002	0.0002	0.0005*	0.018***				
AL (算数・数学)							0.009**	0.012***	0.005**	0.013***

- ・ 主体的・対話的で深い学び（AL）が子供たちの学力に与える影響について、通塾のありなしに分けて分析
- ・ 中学校1年生までの子供の学力に対するALの影響は、通塾のありなしで大きな差は出ていないが、
中学校2・3年年生の子供の学力に対するALの影響は、通塾している子より、通塾していない子への影響が大きい

3 算数・数学では、低学力層にいる子供は、学年が上がるにつれて、低学力層から抜け出にくくなる

- ・ 下位25%（分位点）に属している子供たちが、次年度に下位25%を脱している（分位点上昇がある）のか、脱していない（分位点上昇がない）のかを分析
- ・ 国語に比べ、算数・数学は、学年が上がるにつれて下位25%を脱しにくくなる。
→算数・数学は学年が上がるにつれ、前年度の学力から受ける影響が大きいため、低学年（早い段階）での躓きを残さないことが、一層重要



